

第6学年 外国語活動学習指導案

2組 計32人(男子16人,女子16人)
 指導者 HRT 中尾 ともよ
 AEA ウィルソン みどり

1 単元 「届け！地球便」～鹿児島県のよさを世界へ発信しよう～ (We can! 2 Unit 4 「I like my town.」～自分たちの町・地域～)

2 単元の目標

- 鹿児島県にある施設や鹿児島県のよさを, “We have/can～.” の表現を使って理由を付けて言ったり聞いたりすることができる。 【知識及び技能】
- “see” や “eat” などの既得の知識を活用して, 鹿児島県のよさについて理由を付けて言ったり聞いたりすることができる。 【思考力, 判断力, 表現力等】
- 相手の理解を確かめながら言ったり, 反応しながら聞いたりしている。 【学びに向かう力, 人間性等】

3 単元でめざす子供の姿

判断・形成力	鹿児島県にある施設や鹿児島県のよさを伝えるために, “see” や “eat” などの既得の知識を組み合わせて伝える内容を形成する力
表現力	“We have/can～.” の表現を使って鹿児島県にある施設や鹿児島県のよさを伝えたり, “I want～.” の表現を使って欲しい施設を伝えたりする力
協働力	鹿児島県のよさを分かりやすく伝えるために, 伝える内容や言葉, 伝え方を協力して考え, 問題解決しようとする力

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは, 楽しみながら歌・ゲーム・チャンツ・インタビュー等の学習活動に取り組むことで, できることやできないこと, 行きたい国などを伝える基本的な表現について学習し, それらを用いて話したり聞いたりしながら英語に慣れ親しんできた。また, A L T との活動を通して外国の方と話してみたいという思いも高めてきている。

そこで, 本単元では鹿児島県のよさをカナダの小学生にミニポスターで伝えることを単元のゴールとし, 子供たちが相手や目的を意識して鹿児島県にある施設や鹿児島県のよさを進んで言ったり聞いたりできるようにしたい。また, 鹿児島県の魅力を分かりやすく伝えるためにはどのような表現が適切なかの思考・判断しながら既得の知識や新たに学んだ知識を活用することができるようにする。

本単元で活用する “have/want/eat/like.” 等を用いた表現は, 「We Can! 2」の小学校の思い出や将来の夢を伝え合う活動で活用する。同じ表現に繰り返し慣れ親しませ, 様々な場面や状況で繰り返し扱うことは, 表現を定着させその場でやり取りする力を育成する上で有効である。

(2) 子供の実態 (調査人数: 29名 調査日: 令和元年7月12日)

本単元に関する興味・関心について	よく思う	思う	あまり思わない	思わない
① 外国の方と交流してみたいと思うか。	18	7	3	1
② 外国語活動のとき, 自信をもって英語でやり取りできているか。	12	9	6	2
③ 鹿児島県のよさを英語で伝えられそうか。	7	9	8	5

本学級の子供のほとんどが, 外国の方と交流してみたいという思いをもっている。しかし, 正しい発音ができないことや, 間違えてしまう不安から, 自信をもってやり取りを行えていない子供も多にいる。

5 指導に当たって

(1) 「自分の問い(自分のめあて)」をもたせる教師の手立て

「意欲をもつ」過程では, カナダの小学校から送られてきた「鹿児島県の魅力を知りたい」という内容のビデオレターを見ることで, 「鹿児島県のよさを伝えたい。」という思いを高める。また, 一人一人にミニポスターを送る相手を設定することで, 「分かりやすく喜んでもらえるようなポスターを作ろう。」という「自分のめあて」をもたせるようにする。

(2) 「学び合い」を活性化する教師の手立て

「楽しむ」過程では, 地域のよさやその理由を自由に考えさせるゲームやアクティビティーを行う。そして, 自分の思いを表現するための適切な単語を既得の知識の中から想起したり, 新しい単語を知ったりして, 語彙を増やしたりよりよい表現を共有したりすることができるようにする。

(3) 学びを振り返り, 学びを価値付ける教師の手立て

「振り返る」過程では, 出来上がったミニポスターを互いに見合ったり, 教師が称賛したりすることで, 「英語を使ってポスターを完成させることができた。」という達成感を味わうことができるようにする。また, 「My Goal カード」で本単元の到達度を確認することで, 自己の変容に気付くことができるようにする。

6 指導・評価計画 (全8時間)

【これまでに習得した概念的な知識】

【自己紹介】 “I like ~.” を使うと “持っているもの” を伝えることができる。【A】
 “I have ~.” を使うと “持っているもの” を伝えることができる。【B】
 “I/You can ~.” を使うと “できること” を伝えることができる。【C】
 【買い物】 “I want ~.” を使うと “欲しいもの” を伝えることができる。【D】

⇩ [] 子供の反応 [◆] 重点評価項目

過程(時)	主な学習活動 [活用する表現]	知識の理解の質の高まり	教師の指導
意欲をもつ (1)	1 カナダからのビデオレターを見て、単元のゴールと学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「届け！地球便」 ～鹿児島よさを世界へ発信しよう～</div> <ul style="list-style-type: none"> 施設の言い方を知る。 	カナダのエドモントンは素敵な町だな。鹿児島よさもたくさん伝えたいな。	○ 「鹿児島島の魅力を知りたい」という内容のビデオレターを見て、「単元のゴール」を設定できるようにする。 ○ 施設の言い方に慣れ親しませる。
	2 施設があるか、どうかの言い方を知る。 【B】 [We have/don't have~.]	“We have~.” の表現で施設があるかないかを伝えることができるんだね。	○ “We have/don't have~.” の表現を使ったゲームを行い、それらの表現に慣れ親しませる。
楽しむ (6)	3 山下校区にある施設や、そのよさを伝える表現を確認する。 【B・C】 [We have/don't have~.] [We can see/enjoy/eat~.]	“can” を使うと もっと詳しく施設について説明することができるね。	○ “can” と “enjoy, buy, see, eat, play” などの単語を組み合わせ、施設でできることを表現することで、より詳しく施設の説明ができるようにする。
	4 山下校区にある施設やそのよさ、できてほしい施設を、理由をつけて言ったり聞いたりする。 【B・D】 [We have/don't have~.] [I want a ~. I like ~.]	“I like~.” の表現を使うと、自分の気持ちと、どうしてその施設ができてほしいのか、理由を伝えることができるんだね。	○ できてほしい施設とその理由を “I want a ~. I like ~.” の表現を使って伝え合う活動を行い、それらの表現に慣れ親しませる。 ○ 鹿児島島のよさを “We have~. We can~. I like~.” を使って伝え合う活動を行い、それらの表現に慣れ親しませる。
振り返る (1)	5 鹿児島にある施設や、そのよさを言ったり聞いたりする。(本時) 【A~C・D】 [We have ~.] [I like ~.] [You can see/enjoy/eat~.]	“can” を使ってできることを説明するだけでなく、“I like~.” を使って気持ちも伝えたい方が、鹿児島島のよさを もっと詳しく伝えられそうだよ。	◆ “We have~. You can~.” の表現を使い、鹿児島島のよさを言ったり聞いたりしている。 【思考・判断・表現・やり取り・発表】
	6 ミニポスターの構成を考え、下書きをする。 【A~C・E】	話す内容を選んだり、順番を工夫したりすると伝えたいことが分かりやすくなるね。	◆ 鹿児島島のよさを伝えるのに適切な文を選び、ポスターの内容構成を考えている。 【思考・判断・表現：ワークシート】
	7 ミニポスターの下書きを互いに発表し合い、アドバイスする。 【A~C・E】	前よりもっと詳しく、分かりやすいポスターになったよ。	○ 鹿児島島のよさについて話したことをポスターに書かせ、「書く」ことに慣れ親しませる。
	8 ミニポスターの清書をし、宛名の書き方を知る。(※ カナダへ郵送する。)	日本と違って宛名は番地から書くんだね。	○ ポスターを発表し合うことで、互いの表現のよさに気付かせる。 ○ 宛名を書き、日本とは住所を書く順番が異なることを知る。

【本単元で習得が期待される概念的な知識】

【紹介】 “It's ~.” “I like ~.” の表現を使って自分の考えや気持ちを伝えることで、文章に説得力をもたせることができる。【E】



Unit8 「将来の夢・職業」で、“like” や “can” を使って理由を付けて自分の夢や就きたい職業について伝え合う。

7 本時 (5/8)

(1) 目標 鹿児島にある施設やそのよさを、理由を付けて言ったり聞いたりすることができる。

(2) 展開 教師の言葉掛け 子供の反応 重点評価項目

過程	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
意欲をもつ (7)	<p>1 「Small Talk」でHRTとAEAの鹿児島の紹介を聞く。</p> <p>In Kagoshima, we have many islands. In Tanegashima, we have the Rocket base. You can see the Rocket. What do you like about Kagoshima?</p> <p>・水族館→たくさんの魚を見ることができる。 ・屋久島→美しい自然を楽しむことができる。</p> <p>2 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>鹿児島島の施設やよさを工夫して伝え合おう。</p> <p>3 地域にある施設やそのよさを伝える表現を全体で確認する。</p> <p>A: We have an amusement park. You can play. B: We have an aquarium. You can see many fishes. C: We have a swimming pool. You can swim. D: We have a department store. You can enjoy shopping. 全: Kagoshima is nice.</p> <p>4 グループで発表する内容を考える。</p> <p>“We have Shiranami stadium.” サッカーを見ることができるから“You can see soccer.”はどうか。</p> <p>5 コミュニケーションのポイントを確認し、発表①をする。</p> <p>発表で大切なことは、どんなことですか。</p> <p>・相手の目を見てはっきりと話すといいね。 ・反応しながら聞くことも大切だね。</p> <p>6 「1-up time」を行う。</p> <p>他のグループの発表で良かったところはどんなところですか。</p> <p>ジェスチャーを使っていて分かりやすかったよ。 ○○を紹介していて面白かったよ。 “I like~”や“This is good!”の表現を使って自分の気持ちも伝えられるとよいですね。</p> <p>7 「1-up time」で学んだことを生かして発表②を行う。</p> <p>8 本時の学習を振り返り、学びを自覚する。</p> <p>今日の学習でどんなことができるようになりましたか。また、そのためにどんな工夫をしましたか。</p> <p>ジェスチャーを使って鹿児島のよさを伝えられたから「相手意識」がレベル2からレベル3になったよ。 “can”や“enjoy”など知っている言葉をたくさん使って鹿児島のよさを伝えることができたよ。 自分の思いや気持ちを付け加えた方が、施設のよさがよく分かったよ。</p>	<p>○ 「Small Talk」でHRTとAEAの考える鹿児島のよさを、写真を提示しながら紹介し、最後に“What do you like about Kagoshima?”と問い掛けることで、自分の考える鹿児島のよさについて考え、それについて「英語で伝えたい。」という思いをもたせるようにする。また、「どのようにしたら伝えられそうか。」と問い掛けることで、「これまでに学習した言葉を使って/組み合わせる」など、見方・考え方を働かせて「自分のめあて」をもつことができるようにする。</p> <p>○ AEAは地域にある施設やそのよさを伝える表現を振り返らせる。</p> <p>○ 施設の絵カードと、“see/eat/enjoy”などの動詞とのつながりを考えさせながら板書を構成していくことで、発表したいものに適した動詞を選択し、文を作ることができるようにする。</p> <p>○ 紹介したい施設や場所の画像を見ながら発表内容を考えさせることで、その魅力を伝えたいという思いを高め、想像を膨らませて適切な表現を選択し、内容を構成することができるようにする。</p> <p>○ AEAは机間指導を行い、英語での表現の仕方や発音を指導する。</p> <p>◆ 知っている言葉を使ったり、文の一部を置き換えたりして自分の思いや考えを表現することができる。【思考・判断・表現：発言】</p> <p>○ 反応する言葉を集めた「1-up chants」を行い、“That’s good!”, “I see.”等の言葉を返して互いの反応を感じながらやり取りをすることができるようにする。</p> <p>○ 「1-up time」を行い、発表①で生じた課題や互いのよさを共有することで、発表②で実践できるようにする。また、自分の思いや気持ちを付け加えたHRTとAEAの発表のモデルを示すことで、そのもののよさがより伝わることや説得力を高めることに気付かせるようにする。</p> <p>○ 「My Goal カード」に各項目の到達度を記入し、前時と比較することで自己の変容に気付くことができるようにする。また、本時で何ができるようになったか、鹿児島のよさを伝えるためにどのような工夫をしたかを問うことで、そのよさを価値付け、学びを自覚することができるようにする。</p> <p>○ 分かりやすく伝えるための工夫が見られたグループに発表させ、そのよさや工夫を共有することで、「自分もやってみたい。」「次に生かしたい。」という思いを高めるようにする。</p>
楽しむ (31)		
振り返る (7)		

自分のめあて

学び合いの活性化

学びの振り返りと価値付け